

平成30年 第13週 平成30年3月26日（月）～平成30年4月1日（日）



熊本市 感染症発生動向調査 速報

●今週のピックアップ感染症、無菌性髄膜炎

発熱・頭痛・嘔吐のいわゆる髄膜炎の3主徴に加え、髄膜炎の検査所見があり、髄液から細菌が検出されないものを無菌性髄膜炎と呼びます。多くの場合はウイルス性髄膜炎を指し、エコーウイルスやコクサッキーウイルス、エンテロウイルス71等のエンテロウイルス属によるものが7～8割を占めます。ムンプスウイルスやマイコプラズマも原因となることがあります。

◆どんな病気？

- ・症状……原因となる病原体によって異なりますが、通常、発熱と頭痛、悪心、嘔吐で発症します。進行すると意識障害、痙攣などを起こします。首やひざのこわばりなどの特徴的な身体所見（髄膜刺激症状）がほとんどの症例で見られます。乳幼児の場合は、発熱と不機嫌、易刺激性、嗜眠がよく見られます。
- ・潜伏期間……おおむね4～6日程度（病原体により異なる）
- ・感染経路……病原体により異なり、様々な感染経路がありますが、エンテロウイルスの場合は感染者の鼻水、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによる感染（糞口感染）や、くしゃみや咳のしぶきを吸い込む飛沫感染があります。
- ・流行期……病原体により異なりますが、全体としてはエンテロウイルスの流行パターンを反映するため、初夏から増加し始め、夏から秋にかけて流行がみられます。



◆かかったらどうすればいいの？

- ・通常は入院による治療が必要になります。病原体に合わせた治療や対症療法が中心となります。

◆予防法は？

- ・ムンプスウイルスによるものについては、ワクチンによる予防が期待できます。
- ・手洗い、うがいなどの一般的な予防方法をしっかり行い、患者との濃厚な接触を避けましょう。

期 間		平成30年 12週		平成30年 13週	
		3/19～3/25		3/26～4/1（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	70	2.80	40	1.60
RSウイルス感染症	➡	8	0.50	3	0.19
咽頭結膜熱（プール熱）	➡	3	0.19	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	37	2.31	25	1.56
感染性胃腸炎	➡	65	4.06	79	4.94
水痘（みずぼうそう）	➡	1	0.06	4	0.25
手足口病	➡	6	0.38	13	0.81
伝染性紅斑（りんご病）	➡	2	0.13	0	0.00
突発性発しん	➡	2	0.13	5	0.31
ヘルパンギーナ	➡	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	➡	1	0.06	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）	➡	8	1.60	4	0.80
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	2	0.40
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	➡	4	0.80	2	0.40